

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 2 columns: Item (事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日) and Value (0194700472, 有限会社 ひまわり, グループホーム このは1F, 河東郡音更町新通20丁目1-1, 令和6年2月5日).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0194700472-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Item (評価機関名, 所在地, 訪問調査日) and Value (企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部, 札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階, 令和6年3月6日).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者ご家族あてに写真付きの手紙を送り、近況を知らせている。入居料を現金で支払っていただいているので、月に1回はお話をする機会や交流ができています。入居の方と買物に出かけ、好きな食べ物を選択していただいている。毎週メニュー会議を行い、入居者の食べたいものをメニューに取り入れている。日々の生活でできることは自分でできるような場面作りをしている。(炊事、掃除、畑など)個室にトイレ・洗面台があり、プライバシーが確保されている。家族が宿泊できる部屋があり、交流することができる。(コロナ禍以降は休止中)本人の希望に沿った外出機会を設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、帯広市の北方向にある音更町の高速道路付近に位置する閑静な住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。法人は隣町の士幌町で以前から認知症高齢者と障がい者のグループホームを運営しており、その経験を活かしている。当事業所の建物は、木の素材を活かした木造りで、ヒノキ風呂などホーム内の随所に拘りを感じられる。各フロアの中央に2箇所のリビングと食堂があり、広々とした共用空間であり、各フロアには、ゆっくり休める職員の休憩室や遠方からの家族の来訪のための宿泊用の部屋も用意するなど配慮している。また、コロナ感染症対策として、玄関内ドアに更に引き戸のガラス戸を二重に設置し、風除室を造り、家族との面会を行ったり、換気ダクトを特注設置して特別室を設けるなど特別な配慮も実施している。行き届いた配慮の中、笑顔で明るい雰囲気ホームであり、これからも認知症高齢者の事業所として、期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item, Achievement (取組の成果), Item, Achievement (取組の成果). Rows 56-62 show various service outcomes and their ratings.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設次年度職員から募り理念を作成した。業務日誌に記載し職員全員で共有するとともに、業務内や会議の場において常に理念に立ち返り実践につなげる努力をしている。	事業所の理念は、事業所内に掲示し、パンフレットにも記載して、利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、会議の際に振り返り、共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、利用者と共にゴミ拾いや芸能発表会等に参加していた。日常的にも畑で作った野菜をいただいたり、ホームでの行事の参加の声掛けをしたり、お赤飯等のお裾分けをするなどの交流をしていたが、コロナ禍のためできていなかった。今年からゴミ拾いなど、少しずつ参加している。	町内会に加入しており、ゴミ拾いなど少しずつ地域の活動に参加して交流をしている。今後はコロナ前のように、町内会行事や芸能発表会などに参加したり、また、ホームの行事にも参加して頂いたり、日常的に相互の交流を進めていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練や町内会行事に入居者と参加することで、支援の方法や理解を得られるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催しており、入居者・ご家族・町内会・民生委員・包括の参加がある。サービス内容の報告をし、改善点等の意見をいただき、サービスの向上に努めている。2022年度は「運営推進会議を活用した評価」を実施した。	運営推進会議は、入居者や家族、町内会役員、民生委員、地域包括支援センター担当者が参加して、定期的に開催し、情報交換や多数の意見交換をして、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当職員とは常にメールで連絡がとれる体制ができています。	地域包括支援センター担当者は、運営推進会議に参加しており、定期的に情報交換や意見交換をしている。町担当職員とも必要な都度連絡しており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保のため、職員体制により基本施錠している。身体拘束・虐待防止委員会を中心に毎月のスタッフ会議で話し合いを行い、身体拘束をしないケアに努めている。また年に数回勉強会を開き、知識を深めるよう努めている。	身体拘束・虐待防止委員会が中心となり、定期的な研修会も含め、毎月のスタッフ会議で検討して、学びながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を中心に、月1回のスタッフ会議で意見交換を行うことで職員の意識を高め、日々のケアの中で間違いのないよう確認を行い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会など学ぶ機会はあるが、活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接や契約時に時間をかけて説明し、理解・納得していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や毎月のお手紙で意見、要望を伺っている。運営推進会議に入居者・ご家族に参加していただき、意見を運営に反映し改善に努めている。	毎月、写真付きの手紙で利用者毎の生活状況を家族へ報告している。また、運営推進会議の議事録を送付し、運営状況を報告している。家族からの意見や要望は、来訪時や電話等で聞き取り、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はスタッフ会議に参加している。管理者は日常の会話や会議などから職員の意見や提案を受け、管理者会議で反映し改善に努めている。	ユニット会議は月1回定期的に行っている。また、申し送りは、朝と夕方に申し送りノートで行っている。個人面談は、ユニット長またはホーム長が随時行っており、職員からの意見や提案は運営に反映している	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力認定評価を実施し、実績に応じて給与に反映されるなど、各自やりがいを持てるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人財開発計画書により、自分に必要な研修や書籍の購入ができるシステムがある。職員間で入居者個々に合わせた介助方法を共有するなど、技術を高め合うことができるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	北海道グループホーム協会に加入しており、研修に参加するなど交流する機会を持っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接や入居前にアセスメントを行い、職員に周知することで安心した生活が送れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式の用紙にご家族に記入していただいたり、事前面接に伺い情報をいただきながらご家族の要望や不安にも耳を傾け、関係作りができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや事前面接時に詳しい状況を伺い、必要なものは何かを見極め、プランに反映するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で一緒に料理や掃除を行う中で、教えていただいたり、手伝わせていただきながら喜怒哀楽を共有し、ともに過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や面会時等に状況を伝えている。また必要時には、電話での相談をするなど、ともに支える関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に応じて年賀状を出したり、自宅に外出するなどできる限りの支援をしている。遠方のご家族が宿泊できる部屋があり、コロナ前には活用し関係が途切れないよう支援していた。	利用者は地元出身が多い為、友人や知人、家族の来訪も多い。ホーム内には、遠方の家族が宿泊できる部屋を用意しており、関係継続を支援している。理美容などは訪問理美容を活用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一緒に食事を摂るなど日常生活の他、一緒に外出したり、お誕生日を祝うなどお互いに関わり合える機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった方はお墓参りに行き関係を続けており、コロナ禍以前は退去後入院中の方はお見舞いに行き、ご家族に近況を聞くなど関係を断ち切らないよう努めていた。また退去された家族からの電話や訪問もあった。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で会話・言葉・表情から汲み取るよう努力している。意向の把握が困難な方にはご家族から情報を得るなどし、本人本位に検討している。	殆どは意思表示ができるが、困難な利用者には、日常生活の中で思いや意向の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時に本人、ご家族、利用施設の方から詳しい情報をいただき、職員間で情報を共有しているほか、ご家族にセンター方式の用紙に記入してもらい、情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前面接で情報を得て把握している。日々の生活は、モニタリング・記録・申し送りなどにより職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議でモニタリング・目標の達成状況などについて話し合い、検討している。健康状態や身体状況に合わせて、その都度介護計画書の見直し作成を実施している。	月1回のユニット会議で利用者毎のモニタリングを行い、家族からの意見や要望、主治医や看護師からの意見も含め、カンファレンスで検討して、計画作成担当者が利用者の現状に即した介護計画を作成している。見直しは4ヶ月毎の行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の24時間支援シートの記入、申し送りノートの活用により情報を共有しながら、記録をもとに介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族が希望した時には外出をしている。相談・要望があれば話を聞き、受診対応など必要に応じた支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育所の訪問やボランティア、避難訓練で消防や近隣の方に協力・アドバイスをいただいていたが、コロナ禍以降は休止している。今年度から運営推進会議は実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の医師による訪問診察を月に1回行っている。他病院受診は基本ご家族にお願いしているが、添書を持参してもらい、必要時には職員が付き添うなどの支援をしている。	協力医療機関の往診は月1回で、専門医等は家族が同行して受診している。看護師は週1回出勤しており、24時間の電話連絡が可能な体制を敷いており、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を職員として確保しているため、入居者の健康管理や体調に合わせた対応が24時間できている。介護職員は看護記録への記入や週1回の看護師の勤務時に情報を伝え、指示を受け適切な看護を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と情報交換を行い状況の把握に努めているほか、洗濯などの身の回りの支援もしている。コロナ禍以前は、顔なじみの関係を維持できるようお見舞いに行っていた。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期の方針説明を行い、ご家族に書面にて意向を確認しているが、チーム支援には至っていない。	重度化や終末期の対応は、入居契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、医療連携が出来ない地域事情により、主治医や家族と話し合い最善の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えて一斉通報システムを導入している。応急手当、初期対応について勉強はしているが、実践的な訓練はできていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をしている。消防署指導の下、初期消火訓練や夜間想定での避難訓練を実施している。地域の方にも一斉通報システムに登録していただき、避難訓練に参加してもらっていたが、現在は休止している。	避難訓練は年2回定期的に行っており、備蓄や備品も整備している。コロナ前は地域の方も参加協力していただいていた。BCPは作成中であり、定期的に見直していくことを期待したい。	BCPの完成とそれに基づいた実証訓練を行い、定期的に見直していくことを期待したい。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの身体・精神面・生活歴などを把握し状況に応じた声掛けや対応を行うようにしている。環境面では各居室に洗面台とトイレがあり、プライバシーは確保されている。契約時にご家族に個人情報の取り扱いについて確認しサインをもらっている。	各居室に洗面所とトイレが設置され、プライバシーに配慮している。定期的にコンプライアンス研修を実施しており、人格の尊重やプライバシーについて学んで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に応じ質問の仕方を変え、小さなことでも自己決定できるように心がけている。自己決定が難しい方は、表情などから汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	担当職員が中心となり24時間支援シートを作成し、一人ひとりのペースに合わせた生活ができるよう、本人の思いを反映させた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等はご家族にお願いし、その人らしい装いになるよう支援している。理美容は訪問理容を利用し、一人ひとり意向を確認しながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	数人でできる下ごしらえは雑談を交えて楽しく行っており、その人の力に応じて準備や片付け等の支援を行っている。 季節のものや希望したものをメニューに取り入れ、食事が楽しみになるように配慮している。	食事は職員が週1回の検討会で献立を決め、毎日シフトで職員が調理を行っている。利用者も準備や片付け、食事作りを手伝っている。行事食は、焼き肉やホットケーキ、ケーキ作りなど、インディアンカレーを食べに行く楽しみな支援も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況を把握するため水分・食事を記録し、個別に合った形状で提供するなどの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には声を掛け確認し、介助が必要な方にはその人に応じた口腔ケアを毎食後に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表で記録を付け状況を把握し、一人ひとりの排泄パターンを見極め声掛けを行うことで失敗を減らせるように努めている。また、骨盤底筋体操を取り入れ、失禁を防ぐ取り組みを行っている。	利用者毎の排泄記録で状況を把握し、時間や表情をみて声掛け誘導し、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や運動の声かけを行い、乳製品や寒天の摂取など腸内環境を整え、薬に頼らない支援に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	ゆっくり入浴を楽しめるように時間や回数など、なるべく希望に応じられるように対応している。年に数回温泉に出かけ、お風呂を楽しんでいる。	浴槽はヒノキ風呂で、週2回以上の入浴を行っており、3～4回の利用者もあり、午前中が多い。近隣の日帰り温泉に行くこともあり、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のライフスタイルを把握し、状況に応じて対応している。眠れないときには好きな場所で過ごしてもらい、話を聞くなどして休息できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルで管理し、処方時に確認している。症状に変化があれば看護師と相談し、対応している。 服薬時には、日付・名前の確認を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を活かし、それぞれに調理・食器洗い・裁縫・畑・行事の挨拶・会議への参加など日課となるような役割を持っていただけるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や気分配慮し、買物や散歩、動物園、墓参り、外食など馴染みの場所や希望の場所へ出かけている。	敷地内や近隣の散歩や外気浴など日常的に支援している。外出行事は、動物園や少人数でのドライブ、職員が同行して支援している。敷地内に菜園もあり、収穫も作業も職員と一緒にするなど楽しみな支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と話し合い、個々で対応している。ホームで管理し、外出や個人での買物は個別で支援し、可能な限り本人に支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時にいつでも対応できるようにしている。子機があり自室でも話せるようにしている。手紙や年賀状のやり取りについて、切手購入や投函するなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どこに座ってもテレビが見える位置に複数のソファを配置し、クッション等を置いてくつろげる空間作りを心掛けている。また、リビングにはウッドデッキがあり日光浴を楽しめるようになっている。絵画や写真を飾ったり、季節の飾りつけ(正月・ひな人形・五月人形・クリスマス等)をしており、季節感を楽しめる工夫をしている。	1階も2階も広いフロアで、リビングも各フロアに2箇所あり、六角形のテーブルの食堂も含め、広々とした共用空間である。1階にはウッドデッキがあり、外気浴に活用している。また、遠方の家族の為に、来訪時に宿泊用の部屋も整備している。季節ごとの飾りつけや絵画、写真なども掲示し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部は広くリビングが2か所あり、ソファとテーブルを配置し大人数でゲームや体操をしたり、一人で本を読んだりパズルをしたりと思いたい思いに過ごせる場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使っていたものを持って来ていただくよう伝え、本人の馴染みのあるものを使用することで居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、トイレと洗面台、物干しのポールと手すりが設置されている。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内、廊下のすべてに手すりを設置しており、床はバリアフリーになっているほか、安全に移動できるようエレベーターも利用することができる。居室には高さの調整できる物干しやトイレがあり、一人でできる環境づくりもしている。		